



俗語入志なり

下



急繁下

衣類

○十二ヒトヘのオニツ衣キヌ○又キヌツ衣キヌ

○かキヌ夜ウヘノ○表ハカマ袴ハカマ○上ウヘ衣キヌ

もえき ささき
毛モウのノ衾キヌのノ類ルイ
襦スリのノ衾キヌとト揚ヨウ子シ 胡 カウ キヌ カウ キヌ カウ キヌ

襦スリのノ衾キヌとト揚ヨウ子シ 胡 カウ キヌ カウ キヌ カウ キヌ

○緋ヒ袴ハカマ○板イタ カウ キヌ カウ キヌ カウ キヌ



之浦良助

急繁

〇五下

清りてさめく、地下の志武家の女およりきこの形
又小神をおうらうらそをかいとりとつ

○**伎装束** 小袖の カサ 行衫ヒトヘキヌの原衣

○**大帷** オホウラヒ 衫カサの カサ 衣ヒトヘキヌもをさるハ下仕

上層のてろく下仕といふハ得記選あさうとて

西官記は衫ハ尻巻き袖カサの女ヒトヘキヌの志物ろ

あ千の上のやうろろ袖ろると志物カサハア一極

夜ハ巻くちハくちハのカサの字すてとむへ

○**袖** アコメ 袖ハ得カサの和名阿古女岐沼カサの下ヒトヘキヌは

袖カサ一祝部女子カサの カサ 袖ヒトヘキヌは

○**袴** カサ 袴カサは カサ 袴ヒトヘキヌは

○**押出の打** カサ 押出カサは カサ 押出ヒトヘキヌは

おして カサ 押出カサは カサ 押出ヒトヘキヌは

ハ打か カサ 押出カサは カサ 押出ヒトヘキヌは

○**高尾** カサ 高尾カサは カサ 高尾ヒトヘキヌは

今更々能のろく カサ 高尾カサは カサ 高尾ヒトヘキヌは

○左 不さしそく

河布 せまは 厚きぬき
たり女 つやきしそく

○盃 衣をつわめ

○香 衣の夜。後衣

○子 子 子

○腰 ざし 女舞人の衣

○掛 帯 カケオビ

岷 拍まじりて 女のかり 子

○裾 すりの夜 又 舞子

○か 小袖 い 男女の衣を ま

○袴 褌 も みる は 衣を う

○け だい や みる もの

○は しの 細布 あ

○身 の 代 衣 衣

○衣 又 袴の 時 袴 ひ

○と 子 是 を ま は

○衣 又 袴の 時 袴 ひ

○と 子 是 を ま は

○小扱衣 サヨコロモ

彩衣サヨさらしてよおとせきうくらのこ
よ衣我つまきぬつまるかきゆそ

一人サヨまきくまきよと人のらまるしおなるこ
さよ衣サヨも如とぬるまをせしせし

○ぬき衣 キヌ

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○中の衣

人の料をおりぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○とこ衣

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○煮衣

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○被

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○ふり袖

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○こめ袖

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○袖

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○白

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○腰巻

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○佐

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○理

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○條

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○友

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

○禪

ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ
ぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌぬき衣キヌ

天物とらハ 丸つゝハ 葉糸 丸つゝ

あや枝 ○目深。麻の子。ひころのこ

○目深 まけめいひ ちりめ ○糸 アカヒモ 又その内糸を

いすくハ 糸糸ひもを付てあふろろ料とすけふハよき
ふこいもろむいひーひもくわ時をきりて我をきりて
とつり 五ふろろくむいひーひもをいころーい
これハときーたふアあまてハ

○糸 トの糸の尾ハくろくろも初めろそもありんとき
思ふは糸にて糸ハふて又まよあふんよりアリ

下のおひ 志のりー こそめのー ちめてとける

○三まの糸 三切柳 意もやせてあふろのにおひを

○標の糸 ハ中たゆりともよあふ

○井出のト糸 大廻むー丈おへ下ろろ人井の

抱てあろろをそ糸をさきてそをほんとろろそん時必
あふんと糸糸ーろろねとらぬさて甲一ほよけろ付
男ハ女の糸糸ーろろねとらぬさて甲一ほよけろ付
てあひ ○麻糸の糸 ○老徳糸 糸糸の日
けさー

十段とありて十寸の意よりけりるる

○**鏡** ヒト 伝へりていふに、ハミ 鏡のよき

○**鏡** スカタ 鏡のよき

○**松山鏡** ヒト 鏡のよき

○**鏡** ヒト 鏡のよき

○**鏡** ヒト 鏡のよき

○**鏡** ヒト 鏡のよき

○**橋**のー○**竹**のー 礼記竹箭竹筴

○**髪**うき○**耳**搔○かゝる○**筴**

○**代**唱○**教**龜甲○**象**牙 今注

○**掃** クシ 掃のよき

○**掃** クシ 掃のよき

○**掃** クシ 掃のよき

○**掃** クシ 掃のよき

○**掃** クシ 掃のよき

○**繪合** 函のハハ日 ○**弁合** 天徳四年永兼日 兼曆二年 兼合

草合 ○**貝合** 貝桶 ○**弁貝** 松接

○**頭合** ツツと古の ○**弁繪** 柿

○**虫え** こも ○**古と** ○**か茂** コモリ

○**其** ○**双六** 其合ハ女性の歌

○**篇** ○**突** ○**偏続** へんとつと

へんとつと へんを以て

○**韻塞** 古より作ある詩の名

○**文字** 長音の体

余勅之 原氏の

○**歌** 法曰

削とら 仍の

○**彈** 五雜俎

今関中婦人女子

尚有

新加

新加

新加屋

不二の煙

不二の煙

不二の煙

不二の煙

屋

右

八

月

寸

あ

燗

燗

二

松

三

松

新加屋

川

川

子

子

子

子

子

子

新加屋

子

子

子

子

子

子

子

新加屋

下

下

下

人

人

人

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

意

六十七

えくろ
らうは
孔有

五季
凡
五しぎ
久兼
小いと

重
あ
中川
新

あ
あ
あ
あ

十種香

子
紅
不

兼
古
八

道
中川

三
法

大
急
目
録

日
大
井
川

有
明
ち

夕
時
毎

有
菜

之
不

重
向

初
葉

之
七

八
主
葉

中
川

採
梅

之
七

と
ト
多

男
山

不
表
里

之
七

新
守
不

大
ぬ
き

田
基

之
七

揮
粉

川
流

急
素

之
七

七
夕

人

急
素

之
七

八
重
垣

祝

寸
代

之
七

あ
ら
ち

又
ら
ち

小
の
戸

之
七

あ
ら
ち

又
ら
ち

小
の
戸

之
七

芳村 村の露 忘る涙 紅葉 重木 露花 秋山 深谷 鶴首 山形 尾上 夕人 望合

竹葉 風葉 晚花 塩路 六月 重木 秋草 初喜 百枝 葵 麻 丹 杉川

吐月 庭下 漏月 老木 喜抄 喜隆 秋山 喜水 長安月 節 送 晴 江柳

小豆 早苗 秋風 寄葉 柳花 子木 海 燭 溪 紅 夕月 花林

多松 秋 花 一 花 花 花 夕林 夕人

秋山 山形 埋木 杉川 多松 文梅 夕人 夕林 夕人

古 万代 法 末下 風色 為 斜月 映 秋蓮 送月 新 夕林

古 右 村 秋 喜 小田 夕月 夕林 夕人 夕林 夕人

意の梅

斤糸

鹿

いんり

山下

松糸

さくら

葉を付

志

夏花

法花

あま

手

袖下

まきの戸

春花

一文字

云々

けいりん

山さへ

茶の壺

雲月

十種秀進加

空城

念珠

法弁

赤梅

丹

仏

大西三条京師秀く目録を月花集を
志智宗信行の字に作る

大枝流芳校正

おの志智宗信の千一種目録を弁する

名目録あり 余り難き目録を

○ 釧

ヒチキ

約

臂

和名

釧比知

萬岐の付は

ろよあらんたるの神の巻をていするまを

○ 洲の

五

銀

指

銅

銀

女のよま巻地

もけ侍

○ 指

戒指

○ 婦

巾

針

此の川 一侍 一侍 一侍

○ みちの

紙

握

ま

ゆ

紙

紙

紙。むさきの紙。尾中。不さつ

紙

紙

たろく

たろく 女性のことばをへきもの

お色

お色 剃刀をあをひた 剃刀しへんの

松の芥

松の芥 芥子の油の芥子

名刀

名刀 名刀をあらわす 扇風

黒羽

黒羽 黒羽の羽子 衣箱

いたく

いたく いたく 田舎の女はよく

あまの

あまの 女のことばをあらわす

泊来

泊来 泊来の船 泊来の船

箱舟

箱舟 箱舟の舟 箱舟の舟

蜩か

蜩か 蜩か 蜩か

ち宮

ち宮 ち宮の宮 ち宮の宮

お色

お色 剃刀をあをひた

機

機 機 機

の卵

の卵 卵 卵

くが() 女を差。はうき。とさむいとき
をう。とやせこやまの

まのちあひるよ。伊勢編。ふせあき

笠よそむら。日傘。かさのうら

花笠。袖。ひり。を

あ。きぬ。つ不。こまけの

おむい。まき。やれ。す。は

れ合。やと。め。るこや傘

車。糸色車。威系。内親王内令路
更衣上の車

毛。上。車。大長。若老。女御。更衣
るとの車。牛のゆきをる衣を

横棉毛。ひんら。のあそ。た所

細代。ひ息。の。まのび。眠。女の糸

車。副。女車。眠。信。の女房の車

人。出車。日。上。花。公。あ。う。も。人

車。煙。車。の。か。ひ。上。打出

車。車。の。か。ひ。上。打出

蘇

七十



詩の系字くたうりめ
して形彦

詩讀心

愁多惣下啼紅臉
愁結臺前畫翠眉

夜々啼紅臉
朝々畫翠眉

蘇字回文の詩ハ晋の實滔ら妻の織て天子ニ献
 する抄りて去來の内行々よ是を裁讀の七言
 八句又五言八句讀乃よりそいく詩もよめをそ
 詩のふハ時意の句こそ蘇字の十一ツを易して
 之蘇を去りしむ

蘇

八十

漢書

買色

○傾城ケイセイ。傾心ケイシン。

漢書李延年哥北方有佳人絕世而獨立一顧

傾ケイ入城ニ再ニ顧ニ傾ニ入國ニ

○笑ホツ情ホツ。

○托思ホツシ。托女ホツニ。

○傀儡クワイ。

○扱ヤ發ホツ。

楊氏云晝遊行謂之遊女待夜而發其淫

奔謂之夜登ニ分ニ新ニよニあニ迎ニ工ニあニるニをニ川竹

托女といひ宿ニよニあニるニをニくニつニとニふニ川竹

○くニきニ川ニ竹ニ。○るニがニまニのニ身ニ。○るニれニのニ女ニ。

○一扱書。志のひ書。たひ書。女。さぶ

るこ。仮の質。くき孫。ふ定て通ふ

くニれニつニまニ。あニそニびニ。あニそニひニ女ニ。あニそニひニ女ニ。あニそニひニ女ニ。

○あまの子。ほま定めぬ。たふそる

○過思カヒ。立思タチシ。

の内にあまの思ハ今ニのニよニくニるニをニ思ニ。過思ハた

た思ニおニくニ山ニもニおニりニひニやニらニぶニつニまニこニうニらニうニせニきニらニつニのニまニとニのニ月ニをニてニうニせニきニらニうニハニちニあニらニるニらニうニ

漢書

三十九

蘇州

○人並。揚屋。桑屋。編笠ひやとん

○三ふとん。ひよくコサ産。まがきたき

○鴻原上の町 中の町 才堂町 死田境 下の町 柳屋町 石つき町 三ノ町

○出口又うら御 出口の御。桑シユ産シカカ

○死口。さうハ垣。ねぬる場。ねぬる

○卸コセ家カ。はめの桑屋。ま一

○たそや行三箇町。たより屋

○小向。祇屋町。宮川町六波羅 浅水坂

○吉原揚屋町 京町 依見町 江戸町 角町 仲の町

○お町吉原。大門。日本堤又十石 細尺

○我物カ名カキ。柳カキ暖ウラ屋シ。中下町名のれんうけて軒

下人の住居すまこたし。女中のあらく。中下のいよ

似これハを以てうらひる。をうとを以て。移のた

うち。○油の梅正徳の。俄。物新。桑玉

うら。○大目一。たき新。桑玉

類聚

八十四

冬川カニ日カキ高タカ原ミツイ橋山本山江口津橋

井カニ碓カキ日カキ玉タマ造ツク雲クモ深コホシ新アタラシ聖ミヤコ

末スエ过ワタリ室ムロ尾ビのノ尾ビ鞆ツツ鞆ツツ日ヒ

乳チ子モリ柳ヤナギ所トコロ家ウチ積ツク日ヒ博ハカ多タ日ヒ

丸マル山ヤマ赤アカ子コ白シロ日ヒ

三ミ子コ熱アツク団ダン蟹カニ湯ユ古コ市チ日ヒ

大オホ碓ヱ小コ碓ヱ日ヒ長チガハシ川カハシ化カ新ニ坂サカ

立タテ戒カイ紀キ乾イ来タ来タ丸マル来タ屋ヤ町チヨウ大

持モチ木キ所トコロ見ミ詭ケイ敏ミン虎コ嵐ラン中ナカ者モノ

大いなりいふもあへられと申す

類聚

八十五

神歌

○立所の神

神社考よふ所の神に男女の中を
ちりのよ別をなまるとす

○之禰の神大和

神よりハ伊勢の人集りて
たよりせられハ豊 田 江

之宝山

三法山

神忌山

神うき山

神透山

神南徳山

いづれハ之禰の名と云旨

○志る

の取

より人を付るよとあり

志るよ取る

志るの系

秋立ら門

禰のをと巻

○志布弥明神山城

志九月九日宇治の橋
志る禰をとりけりしと和泉

式部そお嫉妬の取人の志るよと

きうね川

きうね系

山一の里

指

一糸

○鉄禰

○世の河系

○釘打

○生成

鬼よ

るし面の

○鉄禰

係系系

○胎

鏡を掛

○箱根権現

れ川

地神才四彦を出入る
勢文よ入て其を玉眼と

賢くく々ふきあてせすのそるまのふ

○足柄明神

れ諸豆の臨哈坂の法よあり
系よ所の神一登しむり男神

まきま一形あひてまほ房り女神よあひ見え
女神け丈ひくろくありらんとて定てみそ
とやありらんと離お志るよとてまの留を

系

八十六

夜今の神主事り男女此くのもちをすく糸
詣の男女是を捨て男子女子をくらとるしとす

○**雑魚森** サコ 洛外大森と云ふ所の雑魚子男女
多く集り神あよ一おろしめし

ある女ももは一おろし神の御りめしとす

○**柏を袖に包** 三角一 ありの
さめくま

伊勢力大仲まを柏のえを拵て占るあり説き
神良やらの柏よとひてまをま袖よつてとる

○**伊文** サイイ 帝の御所伊勢
○**伊院** サイイ 加茂の伊

○**伊宮** イツキノミヤ 伊宮をいふ八月上
旬よ伊し入るよ八月と伊宮をいふ八月上

○**伊宮** イツキノミヤ 伊宮をいふ八月上
旬よ伊し入るよ八月と伊宮をいふ八月上

上旬よ吉日をえり川よのそと
校をいせし伊宮のイツキノミヤ系
○**女お當** イツキノミヤ 女お當

○**伊波の橋姫** イハ 伊波の橋姫

○**伊波の橋姫** イハ 伊波の橋姫

○**伊波の橋姫** イハ 伊波の橋姫

○**伊波の橋姫** イハ 伊波の橋姫

○**伊波の橋姫** イハ 伊波の橋姫

○**伊波の橋姫** イハ 伊波の橋姫

○**伊波の橋姫** イハ 伊波の橋姫

○**巫廟**。かゝるの雲。約束の夜楚懷

王神女を乞てちきりをとるをうみさる時神女は

○**庚申待** いひあつハセリ。七夜送ぬれを付房

○**結ふの神**。月下老人 紅糸をたてま

○**飯帚の地蔵** 飯帚ハ神后皇后田異玉を

○**大和澤** 大嘗年令よみりし昔古神よて天人

○**務河原** 宇波の傍とて天人の **东枕** 日

○**大原神子** 山城大原の神よ ○**信濃巫**

○**長谷寺** 大和 泊瀬寺 長瀬 小長瀬 五

○**大七りく** かくらく くるこもり

○**火灯又**。又 トウ **大あせき** くわんをん

○**妻帯寺**。○**釵の山** 小中 ○**血の池**

○**衣巻競** 競の女をうけしむねまうてするを

○**三井寺** 七月十ちる女人と集信

〇高雄法花令

二月十日女人

〇高雄法花令

兼川の法本とあることありてのゆゑとくひゆるる女の
もあきうろんとするをこの人めもとてらとせうらの王
生ね言よあこと事ありこれらのおもけりるし

〇七夕

五難姐といりく後新法記よ武下姫て妻
言をあけ特ね志よ柔様のは後を記

歳時記よえふうきのおく列高の記もなふあ人の
月へきするよあひゆけ和漢古くいひ侍て万葉を
介集もあまきとてうとふ人女子の侍て口美とす
よくととあれい家よのそりり侍て七夕をたるはくと
よめらう
女七夕田男七夕といひひうともあめり
女十ハタ たるはくハ織女の一息とて七夕をたるは
〇織女 とよむふ万葉あはるし

〇一年迹七夕耳相人之〇牽牛織女
ヒトハセニナヌカノヨノミアフヒトリ ヒコホレトタナハタツイト
タナハタノイヲハタ

〇棚機之五百機

天の川	梶の葉	祝あふ	かきまのし
羽ひの糸	袖つく	さをすぬ	くわふ
いそまう	と不つま	ともしつぬ	つまむらふ
星合		とちえ	と巧真

乾坤

意の詞と高くと多ふ地之名を平野

○志の嶺山 美川 舟の山 小つ山 山上
 うらその山 山 いをて山 山 王手れ寸の山 山
 積山 アツシ 此の山 ミツア 乾葉山 山 遠坂山 山
 のちせ山 若 詩う子山 妹 峯 山 紀
 めをの山 ハグツ 末の松山 えの松 中の松 末の松 信と寸

占手山 大 神振山 かくき山 山 意の山 山
 志つえと山 宇津の山 カス 里磐山 山上 赤山 山
 赤多川 川 井 井 山 山 赤多川 川
 渡川 セイ 志丸川 川 思川 川 子持川 川
 中川 原 系極川 川 意瀬川 川 見そめ川 川
 あひそめ川 日 書卷川 川 又訓川 川
 一担川 子手川 川 志川 川 足占山 山

密シヤキ落キ橋コ 総ヲ落タ橋モ 虎ツ橋ム 形ス橋カ

作メ 徳ツ橋キ サト くらべききの森 樹ツ しろし

の森山ありその森大いそごの森セ

くたねの森山思の森ツ 誰タをツ 森

森ア山レカイ 立カ支ツの森山 森ツの森

志アのひの思レ 凡カ思ツ 悟ツの冥ム

下ア池レの冥ツ みるこそその冥ム 途ツ切ムの冥

見ミるめの冥ムとへたての冥ム 函ツ 司シ冥ム

長チ人ノ妻メの星ツ 信ツ 妻メあノの里ノ 穴ツ 冥ム

里コ 丹ノ あノこノ 聖ノ山ノ 自ノ 橋ノ 聖ノ 大ノ 差ノ 聖ノ 橋ノ

婦メ 眉ヒ 聖ノ 中ノ 針ノ 飯ノ 森ノ の 聖ノ 辺ノ 山ノ 又ノ 深ノ の

碎大 見大 六一 の 崎相 心又 の 途を

我我 牙牙 の 浮橋 まま つつ 浮池 二二 見見 浦浦

えぬめの浦 ちぬの浦 念念 立立 浦橋

屏風浦と手結浦あり結浦紀

形見浦紀河漕浦セイあはての浦尾

あめせの浦た恋の濱ハ妹ウ浦紀

志のひ浦キ別浦出床浦尾姫浦尾

橋タ風流浦ユ二見の乃ハカミ傾城塚橋

處女塚大日男塚女塚山小町塚日

多羽の恋塚日盛遠書佐理の

舟橋上野むし田女たりり父母よまませのして

ありせさらうしと男古恋塚かの志の

くたまり原の誘ふあり。近あり。むさ

○心玉の八橋ト理中の八橋と子

○心玉の八橋ト理中の八橋と子

○心玉の八橋ト理中の八橋と子

○心玉の八橋ト理中の八橋と子

○心玉の八橋ト理中の八橋と子

切きり。入ニホ。麟リン。虎コ。時トキハ雄オス。昔ムカシヨリミハイ。

たタとト。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

女メ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

山ヤマ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

たタのノ女メ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

をヲ妻メ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

持テ上リてシ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

二ニ人ニのノ女メ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。〇ニにニ不フ。

あ。縮頁習る

あふりそをいなるれふせをのそしすい人を急務

まといさうまーいりく後

けあよりうて 齧 齧とこり

まよまぬれしうとまのぬれいさよあさるをぬれ死

送り火葉えさうけあふん後白二葉しぬれい

はまつく約 約のつまるくこり

火氣のほ長。燕の舟の子安貝

遠葉の玉の枝 牛丸ひりけさーさる

あつ後八月十五お二天上さう 男 帰葉ふ松

あこやの松。石代の法松 経貝こ

むや人をりー松の松をむやいちうひせーさう

かたりんーさうの神中さう法松んもとけぬ

ともむやひていのりふ向と依てふ向者とし

え草 世旦草のく一説さのみあさるを花ハる

北生裁萱草能忘憂 己すぬくこあト

付これとをにのまこま
ことみーありられ
○鬼の醜女草 コウサ 草

抱こられせぬまなくきるあふ人ハ抱てくるへ
さるまなくこよれんとすれとほまぬぬく目すれくと
コウサのまよるまよりの
故るまよる田

○妹は似るまよ 山山

○女神花 をそこへハ花白こは女のみまよ
てつくるヒサコ」女ををんむそけはあそ

りれてまよる女の像より生むおる
○ばふ むさし理の名お葉む」女またとつるまよ
ばふハ根をくさき抱を降るゆまをよんそく
たくとつり 又はあやとよまの

○紫のせりり ○紫のすり衣 あけをるまよ
草のせりり

トコナツ ハ女のまよ
○眼雀 鳥は似る
ツコナツ ハ女のまよ
○燕子花 カキツハタ 女をかきつづく
とつるまよ

○妻あま ハ女のまよ
○男女の花 トコナツ 接し

ホッキ
○鬼灯 ○山茨菖 女の教へ原」見女類つ
つきまよる

○新州 ○福州 森撰式」婦人をあそとよ
可」あまの妻 ○あまの草

手柳を巻物て仙」よま妻のついつくとつよ
まはまとりまのまよのまよひあていまひひけさ
るいつまよとつれまよる 男女もつまよとそれ放
れぬものるれハあまのつまよ

○るつりー草 ハ牛 ○仇念草 さくら

○夏又竹上曰。柳さする あつらひをくま

ツキウサ
○月竹。鴨ハる子。家カ草カ 皆一歌ろり

アムム草カそのけぬきとたあらくさハ今藍カ
津ユ除スるを系スるりあき相あるれハ月草カのり

つしん。梨子の花 花を教るまき。女メ竹

川カ草カ。價オモカケ竹。いてぬを 昔山に男女

あつらひ草カ。かこちら のりよりは名を

くさ。王ミひを 函枝人の上よりこもひ

○ままり草 葉とおもひ。ひる竹 葉

られ。依ヨの竹 油を煮いそのくを煮一ま

あらひをあられくるハ甲一不とあれた

あられめもうれたえま不しき人のたまさらまも

うられてとらぬをさけのりうくるサらまえ

るとえ百を不さけいりあるいそのくさらまり

みくすくるくいらよおりこ さる日まくま

こうるたまき。花ハ竹 おもつけをたひよそめ

あらるあらしけ奇なるを芳太和のあらる

いらといらふ田方あり山波の井もは便女ユ面ひ

せつとことと今より悔いあやうあふまきうそ
 をなりおきへいとあてまききの下うつむひのま
 けあう山吹まおうをそこまきよおむひてふ郎
 けあまあうるまきいとそまのれ又おうか
 昔生あううそ時お男さして、他のんあうとて
 つうれりうとよ おもくけまのれもち方まを
 ○**あなま** 牡丹こむしあ。女は花をま
 けまあてし、おのひりうまきようて男はのん
 あうとてりまきいとまきよまきよまきよ
 まてえのう、仮らとらんおん人のんう
 まとらんまきよまきよまきよまきよ
 ○**報中** つらに別れよまきよまきよまきよ
 工うひまきよまきよまきよまきよ

後よひとらまきよ
 いろりまきよまきよ
 ○**しりかづ** 参く女見
 夫をまきよ

○**定家うづ**。絡石石籠石鏡
 定家は式子心親まきよ

○**下まき** 菊 根の
 けまきよまきよ

○**七美の南天** 帰人鏡のまきよ
 相怪のまきよ

式ハ身をまきよ
 女の身まきよ

○**草の汐** 海まきよ
 海まきよ

あうらまのぬまきよ
 まきよ

いりり可あるもの、（註）のちらりあるとけの

○なよ竹のたせ（註）女をたせては竹と云
たれりる女の子の姿を

るまやうなる竹とたししけのまら川竹と云ふも是なり

○まのくし竹（註）皇女（註）のくし竹の者（註）

○未だ花の（註）皇の木の端（註）桃之夫と

○（註）の袖（註）高のむしをえのぬ（註）

○海棠（註）の枝のたぬき（註）

○塚の柏（註）のちきりのくちや果多人史記晋文公

○ひめはしめ（註）食する娘と子又おる娘として

○（註）又女の衣ぬひし（註）又女の衣ぬひし（註）又女の衣ぬひし（註）

○かゆ杖（註）西月十ある杖のみよ夜を画て女の

○月見の祝（註）二月十ある又十ある十六歳の女子より

○（註）袖の人そてめ丸ひ（註）を本ま

○桑摘 玉く 取らるれと袖も名をハテ流るり
 桑のことして意よハあるれと女の業を
 れハ言ふ我は亦こも季立の内 蚕 維田植石
 醋 鬼灯の影さぬくぬらし 附縁よつて
 白 作よりして 意も 繁もろるへし 意の宗返
 新 むふの師よりして 白 作 幼考 みるきお也

寒羽年三浦雄



意繁終

嘗て 予書中より好むあり
 都つてむのぬしとおこし
 志うらまらるよすきく小元祖乃
 短あま編たをうとく 志うれ
 やはら、 年て 心えうと
 はら づに 母の心
 つく ちん ちん

ていふにわらわはなまのまらぬを
喰ふもあつゝあつゝいふはぬま
枝もいふもいふもいふもいふも
わらわはしつゝいふもいふも
うらゝいふもいふもいふもいふも

雪中答宛完来

返

愈の詞にあらまにあらまのいふを
ぬまのいふもいふもいふもいふも
まらわらわはぬまの神もいふも
みらぬのけぬまの神もいふも
ぬまのいふもいふもいふもいふも
ぬまのいふもいふもいふもいふも
ぬまのいふもいふもいふもいふも

其

友三

人志代りたりて、志のあはれに先
 るは、中しむらりし其れを
 こねて紀記あはまよあけ代この
 撰は、小のきくは、弘母のそく
 らしむる七のそなたのさく、
 とねる、御傳達ありくあはれを
 とまよふ、武とて、あつて、さうい
 つぬらう、さう、あまのあはれ、あ

心とみは、ほく、山の志を、さ
 まら、心、念、み、か、げ、ら、の、さ、う、を、あ
 ま、り、さ、ら、な、ま、さ、う、人、も、あ、り、さ、あ
 さ、ハ、か、れ、人、乃、み、ら、ひ、き、い、ふ、と、て、あ、り
 志、さ、ら、な、ま、は、御、傳、達、と、後、は、あ、り
 推、の、さ、ら、な、さ、ら、な、ま、さ、ら、な、ま、さ、ら、な、ま、
 ら、さ、ら、な、ま、に、さ、ら、な、ま、さ、ら、な、ま、さ、ら、な、ま、
 志、さ、ら、な、ま、さ、ら、な、ま、さ、ら、な、ま、さ、ら、な、ま、

巻五
 七二

蘇集

うゝれゝむと物よととささるは
けまゝとささるはとささるは
いゝまゝとささるはとささるは
いゝまゝとささるはとささるは
いゝまゝとささるはとささるは
いゝまゝとささるはとささるは
いゝまゝとささるはとささるは
いゝまゝとささるはとささるは
いゝまゝとささるはとささるは
いゝまゝとささるはとささるは

文化十三丙子

律雪庵

江戸本石田十軒庄萬葉堂並大取書目録

○類題之部

俳諧發句五百題 春秋庵白雄房撰

小本二冊

新五百題 田喜庵護国撰

中本三冊

新々五百題 全撰

全二冊

名所千題集 全撰

全三冊

今人東風流 洞海舎家谷撰
一具庵一具撰

全二冊

十万句集 全撰

全四冊

故人五百題 松露庵撰

小本一冊

續故人五百題 一具庵一具撰

全二冊

同 同 同 同 同 同

俳諧發句

同 類聚 八系園家松撰 中本二冊

同 今人五百題 八雲東撰 小本二冊

同 類題 古今撰 蕪庵集守撰 中本二冊

同 古今撰 蕪庵集守撰 全一冊

同 新類題 六合庵万里撰 全二冊

同 萬起集 題砂子 八雲東撰 全四冊

同 快哉集 仁比多居唯撰 小本四冊

俳諧田毎の日 全一冊

同 一言萬集 錦舎素柳撰 横本二冊

同 今人發句集 禾木園校撰 全一冊

同 四季發句帳 全一冊

同 白比七五三 柳丸大人撰 全一冊

同 假名遣物 春登上人撰 全一冊

同 万葉用字格 長野美波苗大人撰 全一冊

同 對照假字格 春登上人撰 全一冊

同 音便假字格 全一冊

同 句集之部 全一冊

俳諧田毎の日 全一冊

七

嵐雪句集 一 祜玄峰集

其角句集 坎齋文集

蓼太句集 全六冊

吏登句集 全一冊

巢兆句集 全一冊

完來發句集 全一冊

梅翁宗因發句集 全一冊

太無發句集 全一冊

存義發句集 全一冊

柳居發句集 全一冊

棋狀瓶 甲斐州九集 全一冊

葛里句集 全一冊

護物七部集 全一冊

乙二七部集 全一冊

饒舌錄 元木經大入壽 全一冊

三吟未來記 春秋庵白齋 全一冊

俳諧癖 全三冊

今七部集 冬至庵康年撰 全二冊

今人附合集 永木園校註 全四冊

林書樓印

芳草集 同

芦の心のり 田喜春

○季寄之部

戀の聚 葎雪春北

俳諧手挑灯

同 掌中小本

俳諧袖鏡

季寄便覽

俳諧通言

○文之部

新編俳諧文集 表俳諧定坐変体之圖

俳諧變躰一覽 四面 一鼓

袖之規 表俳諧定坐変体之圖

七秋集々の外古哲術此の要信のり

俳諧礎

○掌中寸珍物

掌中五百題初編

同 二編

全二冊 全一冊

日本一冊

甲本二冊

全一冊

奇珍一冊

一枚

横本一冊

小本一冊

全一冊

集初編

集二編

三編

芭蕉發句集

其角發句集初編

二編

三編

嵐雪發句集初編

二編

乙由發句集

夢太發句集初編

新五百題初編

編

二編

古今撰

猶追之出刺

俳諧一葉集

同 薄用摺

續今人五百題 涉壁為山輯

掌中故人五百題 松露菴主人著

集卅三

集卅四

集卅五

集卅六

集卅七

集卅八

集卅九

集卅十

集卅十一

集卅十二

集卅十三

集卅十四

集卅十五

集卅十六

前編 五冊

後編 四冊

全 五冊

橫本 全 二冊

芭蕉翁略傳常水府 幻窓湖中編輯 附錄附 全二冊
 近世俳諧十家類題集西荻野巢校合 過日庵祖鄉輯 全二冊
 名家類題集 同 著 全二冊
 續枯尾花集義庵雄嶺著 全二冊
 類題狡義集雜之部 同 輯 全二冊
 諸國名家集笠柘素行輯 安房之部 諸國追々出版 全一冊
 古今五百題寸珍本 全四冊
 俳諧獨藝古 全二冊
 俳諧道の便 全二冊
 俳諧戀の禁 全二冊

發行

大坂 秋田屋 大石衛門
 同 河内屋 喜兵衛
 同 河内屋 茂兵衛
 同 河内屋 藤兵衛
 江戸 岡田屋 嘉七
 同 小林 新兵衛
 同 須原屋 茂兵衛
 同 須原屋 伊八
 同 英 大 助板
 同 英 文 藏

書林

製本所

本石町十軒店角
 同 英 大 助板
 同 英 文 藏

